

序

本書は、初期研修医・非呼吸器専門医向けに胸部画像（X線・CT）の読み方について解説した書籍です。胸部X線・CTの読影は、初期研修医・非呼吸器専門医が最も頻回に遭遇する画像読影だと思いますが、専門性が高く、苦手意識をもっている初期研修医・非呼吸器専門医の先生は多いと思います。よって、本書は、専門医レベルの細かい内容は省略し、コモンな疾患に限定して、平易な言葉で解説することに努めました。

筆者が、本書を執筆することができたのは、私の師匠である二人の指導医から受けた教育と、亀田総合病院呼吸器内科で得られた豊富な診療経験のおかげです。2009年4月に筆者は当科に着任し、当時の部長 金子教宏先生（現 亀田京橋クリニック副院長）から、胸部X線の読影法を教わりました。そして、2011年6月に当科に着任された主任部長 青島正大先生からは、呼吸器診療一般の深い知識を教わるとともに、胸部CT読影の基本的な考えや、感染性病態と非感染性病態に分けた鑑別診断法を学びました。お二人の指導医に教わった内容をもとに、筆者は、2012年から、当科をローテートする初期研修医に対して、胸部X線・CTのレクチャーを行ってきました。いくつかの読影ポイントを教えるだけで、初期研修医の読影力が飛躍的に向上するため、胸部画像診断における教育の有効性を感じておりました。

本書の企画の契機は、2015年4月の第55回呼吸器学会学術講演会のときになります。当科は、青島正大主任部長の監修のもと2015年3月に「亀田流 驚くほどよくわかる呼吸器診療マニュアル」（羊土社）を上梓しました。そして、呼吸器学会学術講演会で、出版に際して羊土社の遠藤圭介さんにご挨拶した際に、「当科をローテートする初期研修医対象に胸部X線・CTのレクチャーを行っている。いくつかの読影ポイントを教えるだけで研修医の読影力は向上する」ということを伝えたところ、本書の執筆企画のお話をいただきました。まだ医師11年目の筆者が、一人で書籍を執筆させていただくことについては大変恐縮に感じました。しかし、現場の最前線

で診療と研修医教育に取り組む、今の自分自身だからこそ、初期研修医・非呼吸器専門医の目線に合わせた内容を書けるかもしれないと感じ、執筆を引き受けました。11年目の医師が一人で書いた内容であり、多少内容に不足や偏りがあるところをご容赦いただければ助かります。

本書が、外来や病棟で日夜患者さんの診療に務める初期研修医・非呼吸器専門医の診療に少しでも役に立ち、患者さんの幸福に貢献することができれば嬉しく思います。

最後に、筆者が当科着任時より胸部X線の読影をご指導いただいた亀田京橋クリニック副院長 金子教宏先生、筆者の呼吸器診療のベースを築いてくださり、胸部CT読影法を教えていただいた当科主任部長 青島正大先生に心より御礼申し上げます。また、本書を企画し、細やかで的確な校正を行っていただいた羊土社の遠藤圭介さん、野々村万有さんに深謝申し上げます。

2016年5月

亀田総合病院呼吸器内科
中島 啓